



8-9月

# アーティストと 文化施設のこれから ほか8-9月のパレードをレポート!



「信州アーツカウンシル 2024 パレード」、8月は「アーティストと文化施設のこれから」と題し、茅野市美術館で開催された「Re-SHINBISM2 そして未来へ」展と並行して、諏訪エリアの文化施設と地域を行き来しました。信州アーツカウンシルのこれまで・これからを様々な人々と議論する「オープンカウンシル」が始動し「vol.1 アーティスト交流会」、「vol.2 信州アーツカウンシル・アドバイザーボード拡大会議」を開催。加えて、助成事業で支援している2つの団体がコラボレーションした人形劇公演、県内のアート拠点のフィールドワークなどを行いました。その他に、北アルプス展望美術館で開催された「超老芸術展 in 池田町」でのお隣り静岡県の「アーツカウンシルしずおか」との共同企画、9月には大町市で開幕した「北アルプス国際芸術祭 2024」で行った、ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）との共同事業も含めて、盛りだくさんの内容をレポートします!

## 8-9月パレード 日程

- 7.28-9.1 茅野市美術館  
Re-SHINBISM2 そして未来へ
- 8.4 茅野市美術館  
Re-SHINBISM2 そして未来へ ギャラリートーク
- 8.4 茅野市民館 アトリエ  
オープンカウンシル! vol.1  
アーティスト交流会 @Re-SHINBISM 2
- 8.18 岡谷市こどもだるま食堂/ゆいわーく茅野  
みつばちプロジェクト夏休み特別編 人形芝居燕組  
「タマゴサーカス」「さんびきのこぶた」
- 8.18 北アルプス展望美術館  
超老芸術展 in 池田町@北アルプス展望美術館  
ギャラリートーク
- 8.22 荒神の古民家  
旅する信州アーツカウンシル・  
コワーキングDAY@茅野
- 8.22-23 BBG黒岩、多津衛民芸館、アトリエももも、  
〇と編集社、大昔調査会、フジモリ建築群  
アドバイザーボードフィールドワーク
- 8.23 茅野市民館 マルチホール  
オープンカウンシル! vol.2  
信州アーツカウンシル・アドバイザーボード拡大会議  
～信州から眼ざす、これからの地域・アート・文化施設～
- 8.28,8.30 北山小学校、茅野市美術館  
Re-SHINBISM2 そして未来へ 対話鑑賞
- 9.16 大町市総合福祉センター大会議室  
パレード×ザワメキ・キャラバンin大町  
名店街のどうぶつを描こうワークショップ
- 9.23 大町市内  
北アルプス国際芸術祭2024を  
障がいのある方と巡るモニターツアー

## // VOICES //

### 登壇者・参加者の声

約2ヶ月にわたり行った第2弾パレードのなかでたくさんの登壇・参加した方からいただいた印象的な発言をまとめました!



信州アーツカウンシルができたことで、長野県全体の文化芸術活動が面として見えるのはすごいことだと思っています。  
京都芸術センター副館長／  
京都市文化政策コーディネーター  
山本麻友美さん



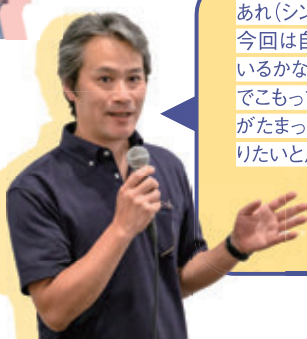
シンビズムという活動は、ちょっと私の解釈も入ってるかもしれないんですけど、木に対する根っこの広がりを伸ばしていくようなものかなと思っています。アーティストが木で、学芸員の方が横につながることで、ネットワークが頑丈になると。土壌も含めてですけど、観客に対して、信州の現代美術を紹介することが、すごく質の高いものになるんじゃないか。  
作家・大町市立大町中学校教諭  
和田潤さん



“高齢者”や“障がい者”といった「枠」からこぼれ落ちる人や作品に目を向けています。  
アーツカウンシルしずおか 榎野展正さん



あれ(シンビズム2)から6年ですね。今回は自分の中では変わった作品が出来ているかなと思っている。作業している時、一人でこもってやったりするのでフラストレーションがたまったりする。その時に変わったものを作りたいと思っているので、シンビズムの企画で自分を表現してみたいなと。  
Re-SHINBISM2出品作家  
藤野貴則さん



アーツカウンシルという仕組みがあるので、何かを置いていって代わりのものをもらっていくような、通貨を介さないコミュニケーションが実現している。これは豊かさだなと思います。  
信州大学人文学部教授 金井直さん





7.28  
-9.1

リ・シンビズム

「Re-SHINBISM 2 そして未来へ」展@茅野市美術館  
／ギャラリートーク8.4  
sun

シンビズム2024のメイン事業として、「Re-SHINBISM(リ・シンビズム) 2 そして未来へ」展を開催しました。本展は、シンビズム2の作家たちに焦点をあて、2018年12月に県内4館で同時開催した作家の作品が茅野市に一堂に会することで、その後の5年半を振り返り、作家たちがいかに進化し、現在どのような作品を作っているかを示し、今を見つめる企画展としたいと考え、「Re-SHINBISM 2」と名付けました。「Re」には「再び」の他に、Reconsider(再考する)、Reborn(再生)、Relate(共感する)、Respect(尊重する)の意味も込めています。

8月4日には出品作家12名が一堂に会して、笠原顧問やワーキンググループ学芸員とともにギャラリートークを行いました。出席が叶わなかった5名については作家メッセージを学芸員が代読しました。

作家たちはそれぞれにコロナ禍を挟んだこの5年半の制作活動や思いについて語ってくれました。なかにはシンビズム作家や学芸員との繋がりによって制作を再開することが出来たというエピソードも伺え、胸が熱くなる場面もありました。

## 出品作家

上田謙二(ミクストメディア)、越ちひろ(絵画)、西澤千晴(絵画)、Yoshimi Hayashi(インスタレーション)、山上渡(絵画、立体インスタレーション)、伊藤純代(彫刻)、伊藤三園(切り絵)、カミジョウミカ(絵画、ミクストメディア)、OZ・尾頭・山口佳祐(絵画、パフォーマンス)、末永恵理(油彩)、橋本遥(漆芸)、山内悠(写真)、齋藤春佳(油画、インスタレーション)、高木こずえ(写真)、中村眞美子(版画)、藤野貴則(陶芸)、山上晃葉(ソフト・スカルプチュア、ペインティング)



8/4 ギャラリートーク

8.28  
wed対話鑑賞  
@ 北山小学校

「Re-SHINBISM(リ・シンビズム) 2 そして未来へ」展の学校連携プログラムとして行われた対話鑑賞。Re-SHINBISM2出品作家の作品をカードにしたアートカードを使いプログラムを行いました。北山小学校では、1〜4年生を対象に実施。1年生は自分の好きな作品を探したのち、各作品から共通する部分を見つける「どこが似ているかな?ゲーム」、2〜4年生は「どこが似ているかな?」ゲームのほか、一人が選んだ作品を質問して当てる「作品はどれだ!?ゲーム」を行い、ゲーム形式で作品鑑賞を楽しみました。また、後日展覧会に来場し、実際の作品を見ながら対話鑑賞も行いました。アートカードゲーム後には「美術館に行くのが楽しみ!」ということもたちの声が聞こえ、教室と展覧会での鑑賞が繋がっている様子が印象的でした。



アートカードゲーム@北山小



後日、茅野市美術館にて実際に対話鑑賞!

8.4  
sunオープンカウンシル! vol.1  
アーティスト交流会 @Re-SHINBISM2

信州アーツカウンシルのこれまでの活動を振り返り、これから育む未来に向けて、さまざまな人たちと語り合う「オープンカウンシル!」第一弾として、シンビズム・アーティスト交流会を実施しました。



たくさんの方にご参加いただきました!

茅野市美術館での「Re-SHINBISM2 そして未来へ」展に合わせて、「オープンカウンシル! vol.1 アーティスト交流会」を実施しました。「オープンカウンシル!」では、信州アーツカウンシルのこれまでの活動を振り返り、これから育む未来に向けて、さまざまな人たちと語り合います。その第一弾として、これまでシンビズムに関わってきた学芸員やアーティストを中心とした交流会を茅野市民館で実施しました。

シンビズムでは、2016年度から8年間にわたり、所属を超えた県内の延べ200人以上の学芸員が交流、協議しながら、76名のアーティストを紹介する展覧会を今回を含めて7回、県内各地で開いてきました。さらに2023年度から長野県が行う「アートの手法を活用した学び」推進事業において、学校での対話鑑賞の普及を図るため、教員向けワークショップの実施やモデル校へのファシリテーター(学芸員)の派遣をしてきました。

当日は約50名のアーティストや学芸員などの参加者が集い、会場にはこれまで県内各地で開催したシンビズム展のポスターや、信州アーツカウンシル2024バレード「はじまりの交流会」の報告等を展示。シンビズムワーキンググループ座長で、小海町高原美術館学芸員の中嶋実さんと、信州アーツカウンシルのゼネラルコーディネーター、野村政之がファシリテーターを務め、意見交換を行いました。



これまでのシンビズム展ポスターが並びました

\* \* \*

最初は、これまでのシンビズムについての印象や感想、成果だと思ふことについて、参加者の皆さんからの意見を募りました。

通常、展覧会を前にしたアーティストは自分の作品を完成させることに精一杯、自分と作品にとことん向き合うその姿勢こそが、社会に対して新たな発想や個性的な視点を与えることにも繋がります。特に、若手の現代美術作家を取り上げることになることも多いシンビズムは、それぞれの作家にとって発展・成長の過程で参加することにもなります。そこで、今回の「Re-SHINBISM」のような企画があることで、約5年間の経過を意識しながら、自分と作品の関係だけでなく、シンビズムがつくっている交流機会や、人のつながりの重要性を改めて認識した、という感想がありました。

また、シンビズム4参加作家の小山利枝子さんからは、長野県内で、より多くの人の目に触れる形でアーティストが作品を発表できる場が生まれたことに対する感謝とともに、県内の美術館の学芸員の尽力によってその場が生み出された、ネットワークの構築と強化が成果として挙げられました。そして「アーティストとは究極的に個人的な存在だからこそ、天高く舞い上がることができるのであり、シンビズムは作家の多様性をすぐ網のようなものであってほしい」と話しました。初回のシンビズムの開催地域であり、シンビズムに8年間関わってきた木曾町教育委員会の伊藤幸穂さんからは、シンビズムを通してさまざまなアーティストを知ることができたこと、所属を超え、学芸員同士で協力しながら開催した展覧会を県外の評論家、批評家に評価されたことがうれしかったと語りました。

\* \* \*

その後、話題はシンビズムの今後の課題を含めた未来の話に展開していきました。シンビズム4に出品いただいた母袋俊也さんは、シンビズムにおいて、学芸員が集って展覧会をする以上は、記録として、取りこぼしの無いよう記述し残していくことが肝要であると話しました。ただし、以前のモダニズムの時代のように、完全に客観的で普遍的な立場が存在しない以上、個人の立場を織り込みながら書くことが必要だと提起しました。

また、常に課題となる事業の資金についても論点になりました。国際的にみても文化への投資が少ない日本、そして地方行政において、どのように資金基盤を確保していくか、アーティスト、学芸員それぞれからいくつかのアイデアが提案されました。たとえば、芸術の社会的役割への理解を促進するように、政治へのアピールも必要ではないかという論点。他方で、子どもや地域への教育普及活動によって出資につながりうるという指摘もありました。公的な文化事業においてこうした集いを行い、現場からの率直な意見や、新たなアイデアを引き出し、記録として報告していくことで、文化芸術に携わる人々の社会性や意識を行政に届けることも1つの手段になります。

他にも、シンビズム3参加作家の前沢知子さんからは、シンビズムのこれまでの記録の蓄積、教育普及の取組においても、それらをどのような観点から検証し、仮説を立てるかが最も重要ではないか、という指摘がありました。また、シンビズム5参加作家の持田敦子さんは、多忙な国内外の美術関係者が時間をかけて見に来たいと思わせるような、長野県内で美術をナマで観ることの価値、独自性を提起する取り組みを展開してほしいと期待を述べました。

シンビズムの参加者以外からも様々な意見が出ました。例えば、観客の立場の意見として、シンビズムに選ばれることは一種の箔付けになるので、シンビズムとしてアーティストを選んだ理由を文脈化できると良いのでは、という提案。関わっている学芸員が楽しもうとしているのが垣間見えることがシンビズムの魅力であり、今回の交流会の議論自体からも、長野県におけるアートや美術の捉え方が徐々に変わりつつあるのを肌で感じる、といった前向きな見解もありました。



アーティスト、学芸員など約50名が集いました



6/15「はじまりの交流会」の振り返り展示

\* \* \*

終盤は、有識者からの総括的なお話で会を締めました。信州アーツカウンシルのアドバイザーボードの一人でもある、信州大学人文学部教授の金井直さんからは、「長野県」という枠組みでシンビズムが行われることに対する多義的な視点が投げかけられました。単に行政区域として捉えるのではなく、大まかにエリアをくくることによるローカリティや「アーツ」の多文化性、互いに顔が見える関係でありつつ既存の「美術」の外との近さから閉塞を回避できる可能性を、シンビズムの挑戦の重要な点として挙げました。

そして最後に、シンビズムの顧問を務める長野県立美術館長の笠原美智子さんは、公立の美術館がパブリックであり続けるための課題〜学芸員の育成、調査研究、展覧会の企画・実施をきちんとお金をかけて行うことがとても重要と強調した上で、捉えようのないほどの極端な振れ幅や跳躍を含む「現代美術」という領域において、地域内のネットワークを構築することが結果的に極端な存在を遠ざけてしまうことへの警戒を提起しました。

シンビズムの活動がまもなく10年を迎える状況において、長野県という地域、アートという領域、それぞれがはらむ閉塞の危険性を意識しながら、首都圏とは異なる環境をもつ長野県での試みの独自性に目を向け、次の10年に向けてヒントの多い交流会となりました。この議論の総体が、シンビズムがこれまで8年間の活動において築いてきた場の信頼関係であり、これをより深めることによって、新たな跳躍が得られるのではないかと思います。

↓ダイジェスト  
動画公開!↓ブログは  
こちら



## 8.22-23 アドバイザリーボード フィールドワーク

信州アーツカウンシルの活動の評価や助言を行うアドバイザリーボードの皆さんと、助成事業等で支援している団体が拠点としている場所を巡るフィールドワークを行いました。

「空き家の幸」の古道具が並ぶ倉庫「宝島」で、助成事業「トピチ美術館」について赤羽孝太さん、吉田綾子さんから解説いただいた後、下辰野商店街で利用されてきた空き店舗などを巡りました。



スタート！  
1



### わかち座 / ブルーベリーガーデン黒岩 [小諸市]

わかち座は、ブルーベリー畑と直売所(ブルーベリーガーデン黒岩)を拠点に、様々な表現を制作する場と活動する人のつながりを創造することを目的として活動する劇団です。農作物もアート作品も生む「畑」として、生活や地域と表現活動が両立・共存する道を模索しています。

収穫期を終え、わずかに残るブルーベリーの实をつまみながら、NAGANO ORGANIC AIRや信州アーツカウンシル助成事業を通してこの場所を育ててきた歩みを司白身さん、黒岩力也さんに解説していただきました。

2



蒐集品のお猪口でお茶を飲みつつ、多津衛民芸館の館長を務めるロジャー・マクドナルドさんと、前館長の吉川徹さんから、理念や活動内容などについてお話を伺いました。

### 多津衛民芸館 [佐久市]

教育者・民藝蒐集家・平和活動家であった小林多津衛氏(1896-2001)の民藝コレクションや書籍を紹介する傍ら、「平和と手仕事」の言葉を理念とし、ものづくりをはじめとした生涯学習の場、また、訪れる人たちが垣根なく憩える場として、1995年より運営されています。

4

### 〇と編集社 [辰野町]

企画とデザインと建築という手法を使って〇(地域)の今を再編集し、〇の未来にワクワクする人を増やすため、イベント企画・運営、デザイン、ブランディング、HP、建築設計、不動産、古物商、シェアオフィス、シェアハウス、企画ダイニング(飲食店)、コンサルティング、アート文化などの事業を行う、民間のまちづくり会社です。



# 8.22



古民家の一角を改装したアトリエで、助成事業「しずかなアトリエ」を開くに至った経緯や、そこでの日常などについて西川直子さん、鈴木真知子さんから話を伺いました。

### アトリエももも [茅野市]

鈴木真知子さん(共同代表／キュレーター)と西川直子さん(共同代表／芸術療法士)により設立された、障がいのあるなし関係なく誰もが自由に創作表現して、ごちゃまぜに交流できる居場所としてのオープンアトリエです。



3

5



諏訪湖畔に立つ「八重垣姫」の像の前で、大昔調査会の普段の活動内容や、助成事業「SUWA×文楽2024」プロジェクトとその背景などについて、高見俊樹さんに解説いただきました。

### 大昔調査会 [諏訪市]

考古学や歴史学等に根ざして地域の大昔(原始・古代)や昔(中近世・近現代)に関わる歴史的文化遺産の保護・活用に資する活動を行う社会貢献団体です。大昔や昔における人間活動を考察するため、考古資料・歴史資料等に関する調査研究を行い、その成果を分かりやすい方法で公開することによって、国民共有の財産である歴史的文化遺産の社会的な保護及び活用に貢献することを目指します。

6

### フジモリ建築群 [茅野市]



シンビズム4出展作家であり、NAGANO ORGANIC AIR 茅野「みちのちのダンススケープ」にもご協力いただいた藤森照信さんが手がけた「空飛ぶ泥舟」などの建築群を茅野市美術館の前田忠史館長のご案内で見学しました。

↓ブログはこちら



### フィールドワーク日程

#### 8.22 木

- 11:30-11:50 わかち座(ブルーベリーガーデン黒岩)
- 12:10-13:40 多津衛民芸館、昼食
- 15:00-15:20 アトリエももも(荒神の古民家)
- 16:15-17:45 〇と編集社(下辰野商店街 など)

#### 8.23 金

- 9:30-10:00 大昔調査会(諏訪湖畔)
- 10:30-11:00 フジモリ建築群 見学(茅野市内)
- 11:30-12:30 「Re-SHINBISM2 そして未来へ」展鑑賞(茅野市美術館)

8.18  
sun

### サポートC×人形芝居燕組 タマゴサーカス さんびきのこぶた

NPO法人サポートCでは、子どもたちの居る場所に文化芸術体験を届ける「みつばちプロジェクト」を2021年から実施しています。今回はその特別編として、人形芝居燕組による人形劇作品「タマゴサーカス」と「さんびきのこぶた」を、こどもだるま食堂(岡谷市)と、ゆいわーく茅野(茅野市)で上演。信州アーツカウンシルが支援する2つのプロジェクトのコラボレーションとして、諏訪地域の子どもたちに素敵な人形劇を届けることができました。



ゆいわーく茅野公演の様子

8.18  
sun

### 超老芸術展 in 池田町 @北アルプス展望美術館 ギャラリートーク

高齢になってから、または高齢になってもなお、独自の創作を続ける高齢者による芸術表現を取り上げる「超老芸術」展の池田町開催にあたり、本展キュレーター・櫛野展正さん(アーツカウンシルしずおか)、野村政之(信州アーツカウンシル)、ゲストに武捨和貴さん(NPO法人リベルテ)を招いたトークセッションや、ARTWINGLABEL(松本市)の展示・コンサートを行い、共同企画としてコラボレーションしました。



作品の前にギャラリートークを行いました

photo by 馬越

8.22  
thu

### 旅する信州アーツカウンシル・ コワーキング DAY@ 茅野

茅野市にある荒神の古民家でコワーキングDAYを開催しました。普段は近所の方々がふらっと立ち寄りお茶をしたり持ち寄った物を一緒に食べたりするのに使われることが多いそうです。当日はたまたま立ち寄ったご近所さんとここを拠点に活動しているアトリエもももスタッフの方が急遽お昼を振る舞ってください、個別相談で訪れた方や信州アーツカウンシルスタッフみんなでちゃぶ台を囲んで美味しくいただきながらたくさんのお話ことができました。



全員でお昼の準備!



8.23  
fri

## オープンカウンスル! Vol.2 アドバイザリーボード 拡大会議

信州アーツカウンシルの事業を支えるアドバイザリーボード会議を一般公開して拡大実施!地域や文化芸術などについて議論を交わし、会議終了後は交流会で談義に花を咲かせました。



山本麻友美さん



ロジャー・マクドナルドさん



辻野隆之さん



会場の様子



金井直さん



若林朋子さん



吉本光宏さん

信州アーツカウンシルの事業全般に対しては、アドバイザリーボード会議において評価や助言をいただいています。毎回の会議は堅苦しいものではなく、信州アーツカウンシルからの報告に対して、毎度、有識者の皆さんから参考になる知見や創造的なアイデアをフィードバックしてくださり、アーツカウンシルの活動のための栄養をいただく場になっています。

「オープンカウンスル! vol.2」では、この3年間にアドバイザリーボードを務めていただいた6名の方から、信州アーツカウンシルのこれまで／これからについてご意見をうかがう会議を公開で行うことで、現場で文化芸術の担う皆さんとともに考えていくきっかけとなるよう、「拡大会議」として開催することとしました。

会場の茅野市民館マルチホールには、2022年の始動からの活動を振り返るパネルや、6月・伊那での「はじまりの交流会」、8月・諏訪エリアでの「パレード」事業の様子を伝える展示に加えて、茅野市民館がホストとなって3年間取り組まれたNAGANO ORGANIC AIRでの、ダンサーの森下真樹さん、写真家の石川直樹さんによる「みちのちの 10 SCENES」パフォーマンス映像や、10種類のフォトポスターが展示されました。

\* \* \*

登壇者は、現在アドバイザリーボードを務めている、信州大学人文学部教授の金井直さん、茅

野市民館指定管理者(株)地域文化創造ニアディレクターの辻野隆之さん、現アドバイザリーボードの京都芸術センター副館長 / 京都市文化政策コーディネーターの山本麻友美さん、立教大学大学院教員の若林朋子さんの4名、そして当初アドバイザリーボードを務めていただいた、(同)文化commons研究所代表 / (一財)長野県文化振興事業団理事長の吉本光宏さん、NPO法人Arts Initiative Tokyo プログラムディレクター / 多津衛民芸館長のロジャー・マクドナルドさん、そして、津村卓アーツカウンシル長、野村政之ゼネラルコーディネーターが進行役となりました。

\* \* \*

これまでの振り返りとして、はじめに話題となったのが、助成事業が生みつつある成果についてです。吉本さんは、アーツカウンシル設立に向けた事前調査を担当した8年前、県や関係機関がまったく長野県内の文化芸術状況を把握していなかったこと振り返りながら、助成活動が実態調査の側面をもつことの重要性和、県内全域の情報の収集・蓄積と可視化の進展に言及しました。続けて、山本さん、若林さんからは、アーツカウンシルのコーディネーターが適度な距離感から対等な関係性で伴走を行うことによる、支援を受けた団体の自信や自発性の醸成とそれによる取組の発展について、さらに、行政を含めて人員体制が変わっていく中でこの働き

を属人的にせず、いかに引き継いでいくかが課題であると指摘がありました。

続いて、信州アーツカウンシルがまだ手をつけることができていない課題、伝統芸能やこれからの地域社会についてが話題にのぼりました。辻野さんは、茅野市民館での20年にわたる取組と関連づけながら、伝統芸能を含むアートの必要性を言語化、可視化し地域の人々との共通認識を作ることが重要な役割であると強調しました。

さらに、これからの人口減少時代、右肩上がりではない「ポスト成長期」に、ミュージアムや街の「エンディング」のデザインも必要なのではないか、とロジャーさんが問いかけ、これに対し若林さんから「終わりを考えることは同時にどう生きるかを考えることでもあり、アートの得意分野である」と、「文化を看取る」新たな視点が提示されました。金井さんからは、アートの価値とは何か、といった定義よりも、肝心なのはアートが実現する価値の分かち合いであり、それこそが民主主義の支えであると俯瞰的な総括がありました。

その後、フロアにマイクが渡り次々と質問が出て、終始活発な議論の時間となりました。終了後には交流会も行われ、新しい人脉とつながったり、さまざまな人と意見交換したりと、参加された皆さんにとって有意義な時間になったのではないのでしょうか。



「はじまりの交流会」やシンビズムに関する展示



これまでの信州アーツカウンシルの活動を振り返る展示

↓ 動画全編  
公開!



↓ ブログは  
こちら



9.16  
mon

## 名店街のどうぶつを描こうワークショップ

「信州アーツカウンシル2024パレード」と「ザワメキ・キャラバンin大町」のコラボとして行われた、大町市在住アーティストの浅井真至さんによるワークショップ「名店街のどうぶつを描こう!」。大町市の共同作業所「がんばりやさん」のメンバーに描いていただいた動物の絵の輪郭をかたどって切り出した木のパーツの中身を、みんなで回しながら描いていきました。ワークショップの中では、パーツを「いのち」と呼び、いのちに描いていく中でどうぶつが完成したと思ったら「生まれました!」と報告します。ワークショップ終盤になると、山はたくさんのどうぶつでいっぱい。最後は生まれたどうぶつたちを机に並べ、鑑賞会をしました。今回は12名の参加者の方に加え、パーツの元絵を描いていただいたがんばりやさんのメンバーにもワークショップに参加していただき、たくさんの素敵などどうぶつたちが生まれました。



名店街のどうぶつを描こう!



←ブログは  
こちら

9.23  
mon

## 北アルプス国際芸術祭 2024 を 障がいのある方と巡るモニターツアー

「ザワメキアート展／ザワメキ・キャラバンin大町」と「北アルプス国際芸術祭2024」をあわせて楽しんでいただきたいという想いから、障がいのある方たちと芸術祭を巡るモニターツアーを実施しました。6家族20名が私たちの声かけに応じてくださり、4エリア10箇所をめぐることができました。初めての取組ということもあり、計画段階から企画チームで話し合いを重ね、施設へのヒアリングをしたり、実際にアートサイトを「バリア」の視点であらかじめ巡って『旅のしおり』を準備し、ツアー当日を迎えました。障がいのある方やそのご家族に面白い体験として経験してもらい、また行きたい!と思ってもらえるよう、計画通りにいかないことを念頭に、各参加者が自分のペースを保てるゆるやかな進行もあってか、障がいの有無関係なくみんなと楽しく同じ時間と場所を共有し合えたことが印象的でした。今後も様々な特性のある方と一緒にアート体験を楽しめるよう取り組んでいきたいと思っています。



ヨウ・ウェンフー竹の波 圧巻でした



←ブログは  
こちら

信州アーツカウンシル

2024



ー ともにつくるムーブメントー  
Shinshu Arts Council 2024 "Parade"

2024.6.15 ▶▶▶ 2025.2.11

- 6.15 はじまりの交流会@伊那文化会館
- 8.4-23 アーティストと文化施設のこれから@茅野市民館ほか
- 11.2-3 ケアのクリエイティビティ@上田市サントミュージゼほか

- 11月1日 伝統文化と豊かな暮らしをつなぐ@南信州エリア
- 2.11 文化芸術と共創～ともにつくるムーブメント@長野エリア

特設サイトはこちらから▶



主催:信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)、長野県



令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

